

相談支援係
072-941-3365

ICT教育推進係
072-943-5785

研究研修・幼児教育係
072-943-5784

教育センター
Web page は
こちらから



『そだちのねっこ』

～乳幼児期の遊びより～



【「Aがつくったクラゲやねん！」

～『やってみたい！』が学びの芽～】

4歳児の様子



5月29日（木）、4歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。段ボール箱をかぶった宇宙人がエレベーターに見立てたロッカーから出てきたり、マットを立てて隠れ家がある豪華客船の中でシマウマに乗っていたり、子どもたちが思い思いにしたい遊びを楽しんでいました。しかし、なんで宇宙人が段ボールかぶってるんやろ？豪華客船にシマウマおる？など不思議がいっぱいでしたが、子どもの発想ややりたいことがそのまま活かされていて、本気で遊びを楽しんでいる姿に思わず「かわいすぎる！」と声が出てしまいました。

学年が上がり、新しい生活や環境に不安をもっている子どもが多い中、『やりたい遊びを見つけてほしい』という保育者の願いがあり、危険がない限り、やりたいことを実現させてあげたいという保育者の愛を感じました。

一見、雑多に見える遊び環境でしたが、子どもたちの遊び方や発している言葉を聞いていると、遊びに必要な環境であり、意味のあるものばかりだということもわかりました。また、遊びの中で、困っている子どもがいたら「会議するよ」と思いを伝え合う時間をつくったり、まだ遊びたい気持ちに寄り合い「サービスタイムあり」と言って遊び時間を延長したり、「伝えなきゃタイム」として言いたいことを言いやすいようにしたりするなど、子どもの心をくすぐるワードをチョイスすることで不安が軽減し、居心地のよさにつながっていると感じました。



すると、Aちゃんが近づいてきて、「これは釣りやねん」「この棒で釣るねん」「使っているよ」と教えてくれました。なかなか釣れない私を見て、「これは磁石になってるねん」「段ボールでつくった魚は難しいねん」「こっちのクラゲは紙でつくってるから釣れるで」「これはAがつくったクラゲやねん！」と自信满满で伝えてくれました。Aちゃんが嬉しそうに自分がつくった遊びを人に伝えたくなった要因は何だったのでしょ

うか？
釣り場には、いろいろな素材の魚や生き物らしきものが入っていました。お世辞でも『上手』な仕上がりではありませんでした。おそらく保育者は、「これでつくる？」「こうしよか！」



と決まった素材や道具を提供するのではなく、選べる素材や試すことができる道具を準備されたのではないのでしょうか。また、見栄えを重要視することなく、Aちゃんが「クラゲ」と思い、つくった「クラゲ」は、どこから見ても「クラゲ」だねと共感する保育者の温かく寄り添う姿があったと思いました。保育者のかかわりでAちゃんのやりたい気持ちが盛り上がり、自分の遊びに自信をもてたことが、『人に伝えたい』につながったと思いました。

そして、Aちゃんの発言からもわかるように、遊びながら素材の種類や違いを知っていることがわかりました。しかし、紙よりも段ボールは重たいとか、金属は磁石にひっつくとかを学ばせようとしたわけではありません。「あれ?」「なんでだろう?」という疑問や発見の気持ちが芽生えた瞬間を見逃さずに、「こっちならどうやろ?」「もう一回やろ!」など試したり、繰り返したりできる環境を整えることで、遊びを通してAちゃんがいろいろなことに気づくきっかけにつながったのではないのでしょうか。子どもが遊びを楽しむ中で、さらなる発見や新しいこと・ものと出会い、『やってみたい気持ち』が芽生えたときが、学びのスタートだと思っています。

乳幼児期で芽生えた『やってみたい気持ち』を受け入れてもらい、『やりたい遊び』を繰り返し、積み重ねる中で、たくさんの学びの芽となり、小学校以降での学ぶ意欲の土台につながると願っています。

【 「え～、葉っぱもしていいの？」

～『やってみたい!』が学びの芽～ 】



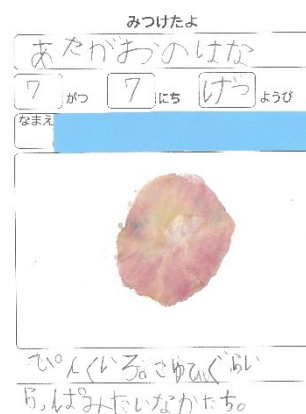
7月7日(月)、小学校1年生の生活科の授業を見学してきました。単元は『はなをさかせよう』で、自分で育てている朝顔の鉢を机の横に置いていました。前回の授業では『つぼみ』を観察し、この日は『はな』に着目した授業でした。担任の先生の笑顔がとても温かく、安心して授業を受けることができる雰囲気を感じました。また、「おたのしみ!」「ズーム」「サンドイッチします」「おまけ」など、子どもたちが「何々?」と興味をもち、ワクワク度が増すようなワードを意識して使われていることもわかりました。

映像で、『朝顔のはなのこすりぞめ』を観ました。「すごい!」「わあ～!」「なんで?」など、半紙に花の色が付くことに大興奮していました。しかし、いざ自分もするととなると、大事に育てて咲いた『朝顔のはな』をハサミで切ることに抵抗を示す子どももいましたが、「またすぐに咲くよ」との先生の言葉で安心して花を切っていました。「どんな風になるんやろ?」「おんなじにできるかな?」と期待する声とともに、「僕の朝顔は白いから、なんも色つかんと思うわ」「花がばらばらになったからテレビみたいにならん」など、思っている結果とは違うことになりそうと少し不安な声も出しながら活動していました。そっと半紙を広げる時、半紙に色が付いているのを見た時の子どもの表情の変化がとてもかわいかったです。

「みてみて!めっちゃ丸くなってる」「あれ?色薄く付いてるやん!」「わあ～、なんかきれいな模様になってる」「(…匂いを嗅いで)草みたいな匂いする!」など、形や色、匂いの変化にまた大興奮していました。

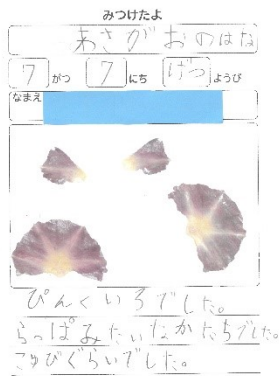
そんな子どもたちの様子を見ながら、先生は「葉っぱやったらどうなるんやろ?」と問いかけました。すると、「えっ?葉っぱ?」と目を丸くし、ワクワク度満載の表情に変化しました。まさにこの表情の変化こそが、『やってみたい!が学びの芽』だと、見学している私までワクワクしてしまいました。すでに、たくさんある葉っぱを選んでいる子どもたちの姿を見て、先生は「やってみる?」と聞かれました。「え～!葉っぱもしていいの?」「やってみたい!」

「やってみる!」と子どもたちの意欲が最高潮になった瞬間でした。「僕は大きいのでやって



みるわ」「どうなると思う？」など、周りにいる友だちとワクワクを分かち合いたくて、対話も弾んでいました。葉っぱをこすりながら、「なんかお花と違って硬いな～」「おっ！緑出てきた！」「後ろからもしっかりこすらなな」と、『朝顔のはなのこすりぞめ』を経験したからこそ、出てくる発言だと感じました。

最後に、「今日、発見したことあった？」との先生の発問に対して、またまたまた大興奮し、目をキラキラさせて挙手する子どもの姿が印象的でした。そして、「花をこすったら、花が消えた。でも、手で触ったら薄っぺらくなった花びらが出てきた」「葉っぱに毛があったのに、こすったらなくなった」「葉っぱのジュースが出てきた」「葉っぱこすったら、なんか匂ってきてやばかった」「花と違って葉っぱはお水の通る道が硬くてこすの力いった」など、実体験で感じたことを自分の言葉で伝えようとする姿は、まさに学びに向かう力につながったと同時に、本時のめあて『はなのようすをつたえよう』が達成できたと思いました。



小学校では、教科ごとに決まった単元を教えることが教員に求められますが、私が今回見学した授業では、子どもたちの『やってみたい！』意欲を引き出すために、教材研究や、授業の組み立て、先生の言葉かけなど幼児教育とつながる部分をたくさん見ることができました。

45分椅子に座っているか、先生の話をしっかり聞いているか、指示された通りに書いているかなど、できる・できないことだけを重視すると、指示や注意が多くなってしまいます。しかし、子どもたちの心が動き、『やってみたい！』の意欲が育つ授業は、あっという間の45分でした。できる・できないの結果だけを重視するのではなく、そこに至るまでの過程を大事にする授業が魅力的であると同時に、幼児教育で大事にしている非認知能力の育成が小学校以降の認知能力にもつながっていく部分だと感じました。

通級指導教室担当者会③

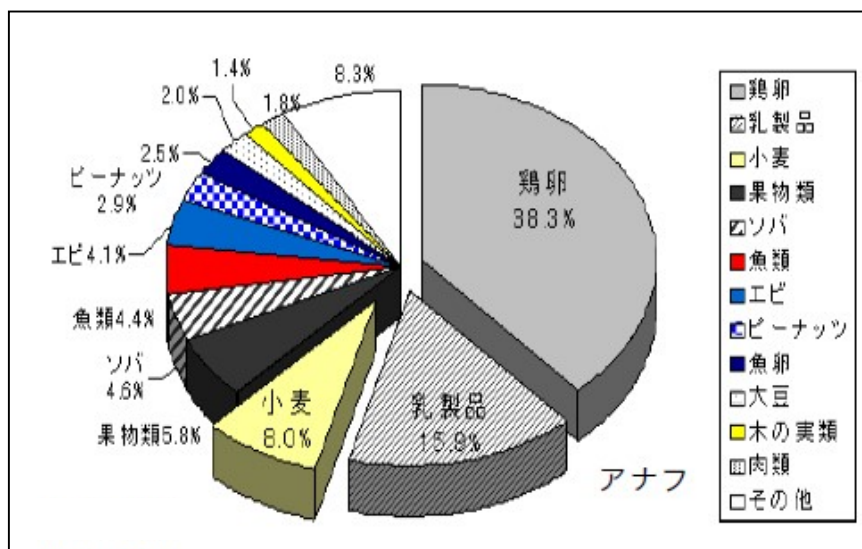
令和7年7月7日（月）午前9時30分～午前11時30分に通級指導教室担当者会③を行いました。前半は市内中学校の通級指導教室の公開授業の動画を視聴し、後半は 一般社団法人 発達支援ルームまなび 今村 佐智子 理事より指導助言をいただきました。

<受講者感想>

- ・中学校での通級指導教室の活動を見たことで、小学校との比較や中学校までにつなげる課題を考えることができた。切り紙に対する指導の観点や支援方法の丁寧さはよく考えられていると感じた。
- ・ゲームとの付き合い方や睡眠時間を考える課題を授業の中に取り入れていて、自分の睡眠時間が少ない理由やゲーム時間を減らしていけないなど長い目で見て自ら気付けるようにする課題設定にしている素晴らしいと思った。
- ・今村先生も話されていたが、学習の進め方や、活動内容を説明するときの言葉遣いなどが教室での授業と同じようになっていたので、教室で過ごすための重要な方策だと感じた。また、児童の苦手な部分や寝不足からの集中力が持たないという実態を把握し、色々な方向からアプローチをされておられる授業を見させていただき勉強になった。
- ・グループ交流の中で、ある中学校の先生が「自分のダメな部分を見つけると後でしんどくなる子がいる。」という話をされていた。そこで、スクールカウンセラーと連携しているそうである。カウンセラーさんから「理想の一日を作ってみて」とアドバイスをもらい、子どもが気持ちを切り替えられるよう配慮されているある。このような連携も素晴らしい取り組みだと思う。自分も実践してみたい。

幼児教育研修＜健康及び安全研修＞

7月10日（木）午後3時～午後5時幼児教育研修＜健康及び安全研修＞を行いました。講師



は 大阪健康福祉短期大学学長
まなべこども・アレルギークリ
ニック 眞鍋 穰 院長 で、
研修テーマは「子どもの食物ア
レルギーの基本と対応」です。

←研修使用資料「食物アレルギー原因物質にはどんなものがあるのでしょうか？」

＜受講者感想＞

- ・食物アレルギーの原因が明確になれば、原因物質の除去が基本的な対応になる。除去す

ることで改善するという具体的な数値を知ることができ、大きな学びとなった。

- ・食物アレルギーに関して、少しずつ食べて慣らす、完全に除去する、両方の話を聞いていたので、なぜ意見が分かれるのだろうと不思議に思っていたが、今回の研修で確信を得た。
- ・小麦粉粘土の粉を吸って反応が出るということを聞き、改めてアレルギーの怖さを知るとともに、その対応の大切さを知った。

通級指導教室担当者会④

ソーシャルスキルトレーニング (social skills training → SST)

発達障害の子どもたちは社会性に関するつまずきが多い
「集団行動がとれない」「友人関係が成立しにくい」

↓
社会性の獲得・向上をめざす教育・指導の一つ

抽象的・包括的な能力を育てるために
具体で操作可能な設定により
一つ一つを身につける

令和7年7月11日（金）午前9時30分～午前11時30分に通級指導教室担当者会④を行いました。前半は1学期の成果と課題について自主活動・保護者連携・チーム連携・入り込み支援などを柱に実践交流を行いました。後半は一般社団法人発達支援ルームまなび 今村佐智子 理事を講師として「SST」について講義していただきました。

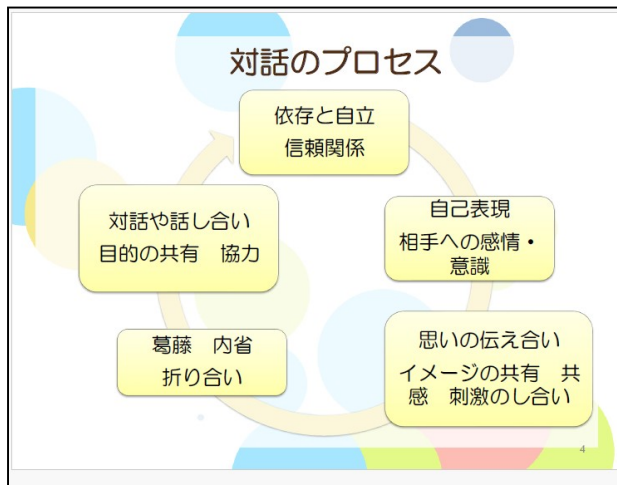
＜受講者感想＞

- ・SST ではこれまで仮想トレーニングばかりを行ってきたが、実際に身につけた力を発揮させる場が大事だと改めて感じた。集団の中で、どのように自分の特性を受け入れながら協働していくのかは、これからますます重要になっていくと思う。これまでは、個別でしか通級指導をできていなかったが、複数人でのグループ指導も効果的に取り入れて、より体験的なトレーニングも実施していきたい。
- ・漢字の間違い方について教えていただけたことがとても印象に残った。ミスの種類から様々な考え方ができるということが自分にとってはとても衝撃的な発見であった。また、SST に関してまだまだ知らないことばかりなので、もっと勉強していかなければならないと感じた。
- ・6年生の修学旅行における不安なことや心配なことに対するSST もやってみようと思った。また、中学年グループのSST も担当しているので、毎回の自己紹介や説明するクイズなど二学期から取り入れてみたいものをたくさん教えていただいたので、実践するのが楽しみだ。

幼児教育研修＜ミドルリーダーステージ研修①＞

令和7年7月18日（金）午後3時～午後5時に幼児教育研修＜ミドルリーダーステージ

研修①>を八尾水道センター4 階大会議室で行いました。講師は大阪大谷大学 奥蘭 みどり 特任教授で、研修テーマは「集団づくり 仲間と育ちあう教育・保育とは～「いいね」が広がるあったかいクラスづくりをめざして～」です。



←研修使用資料

＜受講者感想＞

- ・子どもを中心に据えて、保育者がその子どもの良さや可能性について考え合うことが子どもにとっての育ちになり、保育の質向上にもなっていくことを教えていただいた。子どもが見せる何気ない姿や、ふとしたつぶやきなども、より一層キャッチしていきたいと思った。
- ・保育者の思いよりも、まずは子どもがどうしていきたいのか、何を楽しんでいるのかを見取って関わっていきたい。

・集団づくりのために、集団の中の子どもの姿を見がちになっていたことに気づいた。集団の前に、一人ひとりの姿や目に見えない内面的な心の動きを見取ることの大切さを学んだ。

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は7月から8月に配架した雑誌の誌名と目次の一部と書籍の内容を紹介いたします。

「特別支援教育」（東洋館出版）季刊（夏号）

- ・特集 総合的な学習（探求）の時間

「指導と評価」（日本教育評価研究会）8月号

- ・特集1 「探求的な学びの充実」
- ・特集2 負の感情とどうつき合うか

巻頭言で東京成徳大学 新井 邦二郎 前学長は 『「負の感情」のかげとひかり』と題して寄稿されています。正の感情は対象や事象への接近行動を引き起こし、負の感情はそれらからの回避や逃避行動を導くと述べられています。そう考えると負の感情は人の生物的・社会的生命の維持に貢献するといえます。これが正常に機能していないと人生を誤ってしまう可能性さえあります。これがひかりの部分です。これに対してかげの部分、他者あるいは自己への負の感情です。これにとりつかれると、他者や自己に対する攻撃的な思考を引き起こします。新井氏は「喜びは分かち合えば倍になり、悲しみは分かち合えば半分になる」という言葉を紹介して、「心理的安全性」を確保したうえで「感情の交流」を導くカウンセリング、とりわけグループで行う構成的グループエンカウンターへの期待を述べておられます。負の感情と向き合うことは人を成長に導く可能性もあります。勝負ごとに負けた時、悔しい感情に向き合って、次回の勝利に向けての努力につなげることも大事だとのことです。心理学者のユングも負の感情を認識して受け入れ、意識と統合することにより、個性化（自己実現）というその人らしい発達が可能であるとしているそうです。結局、負の感情は「両刃の剣」で、適切に処理するならば自分らしい生き方を選択できるとのことです。

（葭仲）

「道徳教育」（明治図書）8月号

- ・特集 道徳名人の授業づくり special 講座 2025

「特別支援教育」（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課編集・東洋館出版社）夏号

- ・特集 総合的な学習（探究）の時間

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育研究連盟編集・東洋館出版社）8月号

- ・特集 「主体的に学習に取り組む態度」をどう評価していますか？

「初等教育資料」（文部科学省編集・東洋館出版社）8月号

- ・特集Ⅰ 各教科等の目標の実現に向かう GIGA スクール構想のもとでの授業①
- ・特集Ⅱ 学習指導要領における指導のポイント〔特別活動〕
主体的に社会参画する態度を育む特別活動

「中等教育資料」（文部科学省編集・学事出版）8月号

- ・特集 各教科等の指導における問題発見・解決能力の育成②
＜理科、保健体育、音楽、美術、芸術、外国語＞

教育科学「国語教育」（明治図書）8月号

- ・特集 教材研究がとにかく捗るアイデア帖

教育科学「社会科教育」（明治図書）8月号

- ・特集 探究的な学びを実現する！「パフォーマンス課題」授業プラン

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集・東洋館出版社）8月号

- ・特集 算数科における学習内容の重点化

書籍：『新版八尾市史』（八尾市）

「夏だ！祭りだ！」と思われる人もあるのかもしれませんが、八尾市では秋祭りを行っている地域もあります。また、だんじり、ふとん太鼓、まくら太鼓などそれぞれです。『新版八尾市史』民俗編・第一章・第三節 祭礼・（1）神社の行事では、八尾市内の祭りについて紹介しています。伝統の祭りといえども、時代と共に変遷があり、『新八尾市史』が出版された平成31年3月から現在（令和7年7月）の間にも、変わったところがあるようです。祭りは神事であり、伝統を受け継いでいくことも大事ですが、時代に合わせて変わっていくのも必要です。教育センター（八尾市水越）の前には今年も玉祖神社の鳥居の横に櫓が組み立てられ、7月20日（日）には七親会による練りと宮入が行われました。

（葭仲）

